

定 一部五銭 廣 五銭十二行 休 日曜大祭 福島縣石城郡平町鍛冶町十一
 郵 五銭 告 字一十行 刊 日 印刷所 本社専局 陽

常新新聞

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
 印刷所 常磐毎日新聞社

刊夕日四廿月九

常磐文藝

私の川柳

ノートから 新島新坊

△置炬燵障つてならぬ足に
 △御冗談でせうと女將軽く
 △寫眞より口が大きいなど
 △ヒステリー困つた事を口
 △冗談と思へど迷ふ小間使
 △憤られてから冗談にして
 △罷めて行く社員へ臆で挨拶し
 △女中部屋疑ぐられたを口
 △検査官金庫を皆んな開け
 △本人が来たに受付くごい
 △日曜日坊やに笛を吹かせ
 △通過驛汽笛一聲だけ残し
 △電話口出た本人へ念を押
 △本人の外は良縁だと思ひ

看護婦派出の求めに應ず

平町南町 看護婦會 電話三〇七番

洋食は向上軒

平町車場新道通り 電話五二三番

和洋漆器店

建築ペンキ塗 美術諸看板 硝子金銀文字 其他各種

大音堂 平町四丁目

目丁一町平 巷五〇四話電

今秋の流行品

中折帽 二圓八十錢ヨリ
 ナン帽 二圓ヨリ
 鳥打帽 三圓五十錢ヨリ
 子供帽色々
 最新式豊富三揃マシタ

警城平町 電話百四十番

鶴屋

電話百四十番

社説

淺薄なる研究よ（二）

川崎文治

一 体水道研究會がその研究の範圍を
 イ大瀧江筋より探る場合
 ロ好間川本流より新に水路を設けて探る場合
 ハ電氣會社の水槽より探る場合

との三項目に限定せるは如何なる理由にもせよ最初から電氣會社の水槽より取水するを理想的なりと斷定すべき意圖を有し殊更らに是れを主張せんが爲め研究に籍口して同會の設立を見たるが如き感を一一般人に抱か

オシムルク

お子様方は 正直です
 メリーミルクが 大好きさ
 申されま

製造元 東京東區
 代理店 東京東區
 平町四丁目

平町城山(舊城跡)三の丸
青沼醫院
 醫學士青沼淡夫
 電話四〇三番

東邦民衆保險

火災 保險料は極く僅かのもので有ます
 ハガキか電話で御申込み下さい
 特に御便利に御契約引受致します

警城平町 代理店 草野源三郎
 電話一七五番

関内藥舖

藥劑師関内栄助
 電話四〇番

しめたるは甚だ遺憾に耐えず、殊に意見書なるものは研究の結果を發表せるものなるべきに文中數多く計數その他の誤りあるは甚だ其研究の淺薄にして杜撰なる事を證據立てるものであつて一例を擧ぐれば
 平町の上水道は大瀧江筋より一、三個の水を得る契約になつて居ります、而して此の水量は一人一日當り處要水量五斗とすれば人口三萬三千人に給水し得る譯でありますとの一項あるが、三個の水量を一人一日五斗とすれば三萬三千人に給水し得ると云ふれば其夫れは三萬四千五百九十四人に給水し得るものであつて差引千五百

九十四人の差がある、吾人は斯かる重要な計數に多大の誤りあるを同會の爲めに甚だ惜しむと同時に數十日の日子をついやして得た結果であるべき意見書なるものが皮相疎漏殆んど見る者をして失笑せしめ何等據るべき根底を見出すに苦む空文字の選列に止まらるるに拘らず是れを憶面もなく印刷に附して一般に配附せるは寧ろ人に恐れぬ盲蛇の行動と云ふを得べく尙ほ平町多數の眞正なる輿論に反馳した同會の意見書は是れを民衆に對する一種の挑戦状とも見る事が出来るのである (續)

株式賣買中値

電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
警越銀行	一一五	一〇五
警城實業	五〇〇	四〇〇
警城實新	三〇〇	二七〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四〇
同新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	三七五
同新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	七〇
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
警城製菓	一一五	一五〇
警城製菓	一一五	一五〇
平信託	一一五	一三五
警城勸業	一一五	一三五
植田物産	一一五	二六〇
平製水	一一五	二〇〇
好間軌道	一一五	三〇〇
入山新	一一五	一七〇
小田炭礦	一一五	一五〇
警城炭礦	一一五	一四〇
同新	一一五	一八〇
警城セマン	一一五	六四五
同新	一一五	四三五
平運送	一一五	八〇

平町田町 電話三二三番
丸登株式店
 川添房二郎

立會演説決定次第

無名で費用を贈る

援助者の激勵状

大瀧發電所問題に關し中町が平電氣會社より貰ひ水をするを是なりとせる主張を發表した平水道研究会に對し川崎本社長は公憤禁する能はざるものあつた爲め同

會々長 萩原義雄氏

に對し立會演説の申込みを爲した事は既記の如くであつて此舉に關して各方面の注目をひき社長宛數通の激勵状さへ見るに至り中には一日と場所が定まり次第其費用とし無名にて貴社へ送りませう……決死生……と云ふ同情ある援助者の

投書も 舞込だ程で

あるが萩原氏から非公式的に本會の意見は必ずしも何處迄も押し通さねばならぬと云ふ性質のものでなく若し誤りがあれば直ちに訂正するのであるから立會演説の形式をかりす懇談的に話しを進めたいとの申出があつたけれ共未だ正式な回答には接しないので更に本日高木社員をして萩原氏に對し再交渉を進めた

雨が漏る

警中新校舍

縣から調査に警城中學校新校舍は建築粗漏な爲めか去る十六七日の大暴風雨にも廿一日の雨天

常磐片々

天命か、栗欣收監
平水道研究会の持つた提灯は白張りであつた
道理で相手の御意見に依つては張り直す手数が無いと
白紙主義……白張主義
どちらでもよい
も一度「水は國家の所有物」の御名論をお聞きしたい

平窪雄辯大會 石城郡平窪村雄辯大會主催聯合

地色に 赤すんだ茶

大島風

昨日の決勝戦

平校が優勝

募集

仙銘

器用

御蔭様

平町人事

死亡

秩父銘仙は之迄地質に重きを置いて來ました女柄はあまり變化は見ませんでしたが近來は柄と云ふ事を非常に重きを置きました大柄の模様物等は見事な柄が出来て居ります中柄等でもリングを巧に應用して目も醒める様な物を拵けて居ります

物を織出し居ります柄合地色等は秩父と大した變りはございませんが秩父の模造出來ない拵がございますスレートやリングを入れて柄を加工いたして居るなどは實に見事なもので併に於ても秩父辨よりかは柄は

で秋の新柄物は安い時の仕入で充分揃つています(三井呉服店談)

山森正春氏長女弘子 江尻直次氏長男孝雄

募集 文藝其他一般投稿を募集します

護身具取締

近く再び斷行

打身に竹の皮

打身に竹の皮



藝妓と酌婦

年輪しらへ

不平受付

不平受付

栗原の收監

某特志家の傳へ來る

切手の復興

下山田翁逝く

栗原の收監を時既に本紙は刷り上り遂に報導の機を逸した

某特志家の傳へ來る 時既に本紙は刷り上り遂に報導の機を逸した

切手の復興 來月一日から平郵便局小川主事の談に依れば去る七月廿一から三錢及び一錢五厘のミシン及び糊付の切手を賣つて居たが十月一日からは總べての切手を震災前と同一形式と爲し一般に賣り捌く由

下山田翁逝く 石城郡山田村下山田嘉七翁は豫て病氣中の處廿二日午後三時遂に逝去した、翁は生前地方の徳望家として縣會議員にも選ばれた事あり、公共の爲め貢獻した功勞は非常なものである

大瀧發電所問題にて散々三萬町民に迷惑をかけて居るに拘らず大道狹しと大きな顔で平町を歩き廻つて居た元平電氣企業社長栗原欣次郎氏は商法違反、文書偽造、詐欺等の

發行の準備を整へた處幸ひ同業警城新聞は印刷最中此報を得て直ちに紙面を組み直し是れを報導する事が出来たとの事に號外發行も中止した事を正直に告白する

不平受付 投書歓迎

募集 文藝其他一般投稿を募集します

平署管内の藝妓は百九十三名、酌婦百八十四名であるが是れを年齢別にするに、藝妓は十二歳以上二名、十四歳以上八名、十五歳以上百十五名、廿一歳以上六十

ねつていたむ場所へはります。一日に二回位はりかへますとすぐなほります、すると再發する事はありませぬ

不平受付 伏見助役の答

募集 文藝其他一般投稿を募集します

打身に竹の皮 ヨーチムチンキやイヒチオールなどでなほらぬ打身は、竹の皮を黒焼きにして粉にし、これを御飯の糊で

藝妓と酌婦 年輪しらへ

不平受付 不平受付

募集 文藝其他一般投稿を募集します